

世界に平和を・戦争の基地はいらない

横田基地ミニ情報 2009.1.25 No. 33 連絡先 042-555-1911



横田基地 航空総隊司令部等の移転で日米共同使用の土地は約57,500㎡に



2006年5月の日米安全保障協議委員会で承認された「再編実施のための日米のロードマップ」で航空自衛隊航空総隊司令部等が横田基地に移転するとされたことから、日米の共同使用する施設（建物）や地域（土地）については、地位協定第2条4項（a）に基づき、日米合同委員会で合意することになっています。

2007年7月2日には、航空総隊司令部庁舎本体用地として約20,000㎡の土地の共同使用が日米合同委員会で合意されています。

2008年12月11日には、土地約37,500㎡の共同使用が日米合同委員会で承認されました。

◎防空指揮群庁舎、医務室、通信鉄塔、通信局舎、食厨、厚生施設、講堂、連絡通路用地、
◎隊舎、浴場、外来宿舎、隊員クラブ用地、の2つの地域です。

2007年7月2日と2008年12月11日とで、土地の共同使用は約57,500㎡になります。

2009年1月8日には、米軍の下士官教育施設の移設整備を実施することが合意されました。
構造はRC造2階建て、規模は1棟約1,600㎡。

日米共同訓練に使用するための共同使用、土地は約804,000㎡、建物は約15,000㎡

2007年10月25日には、日米共同訓練に使用するため、土地約804,000㎡、建物15,000㎡、工作物一式（滑走路、誘導路、駐機場）の共同使用が、地位協定第2条4項（a）に基づき、日米合同委員会で合意されています。

米軍再編で米軍横田基地の日米一体化が進んでいますが、自衛隊基地も日米一体化が進んでいます。自衛隊朝霞駐屯地に見られるように、日米共同訓練に使用するため、地位協定第2条4項（b）に基づき、米軍施設建設や用地の共同使用が拡大され、米軍基地化しています。

原子力空母艦載機F18ホーネット、09年厚木基地始動！

米陸軍第一軍団司令部の撤去を求め、キャンプ座間へ抗議！

神奈川平和委員会よりの資料提供です。2009年1月5日、米海軍厚木基地では空母ジョージ・ワシントンの艦載機F18ホーネットが、大島沖での訓練のため、本年の初飛行を始めました。神奈川平和委員会は、年明けに、「すさまじい爆音を体で感じる体験学習会」を開催しました。昨年12月19日には、米陸軍第一軍団司令部発足1年、「撤去を求める」抗議デモをしました。

（写真はキャンプ座間への抗議デモと、厚木基地の原子力空母艦載機F18ホーネット）

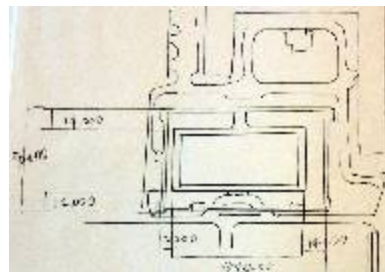


航空自衛隊航空総隊司令部棟の工事の状況は？配置図はこんな感じ？

航空総隊司令部等の移転に伴う予算は、2007年度から2009年度（概算）までの3年間で493億円にもものぼります。2010年9月末が完成予定なので、経費はさらに膨らみます。

航空総隊司令部棟の本体工事は約150億円とされています。現在の工事状況は、地下2階部分の建設のため105^{メートル}×102^{メートル}×（深さ）20^{メートル}（防衛省による）の土壌を掘削し、25万立方^{メートル}（46万^{トン}）の掘削残土を、日の出町と青梅市にある残土処分場に搬出をしているところです。土壌の安全性が確認できていません。残土搬出期間は、昨年7月29日から今年5月末までの予定です。

航空総隊司令部棟の建築図面は防衛省によると「見せられない」そうで、建築概要書の配置図（1/2000）を写したのが右図です。数字も正確に読み取れないのでおおよその数字です。これによると、地上部分は44 m × 85.4 m = 3757.6 m²、地下部分は72 m × 102 m = 7344 m² となります。



日米共同統合演習(キーン・エッジ09) 1月15日～27日 横田基地などで実施！

自衛隊の統合幕僚監部は2009年1月8日、下記の要領で「平成20年度日米共同統合演習（指揮所演習）を実施」すると発表。キーン・エッジは、コンピューターシミュレーションでミサイル防衛などの訓練を行い、米軍は約350人、自衛隊は約1,300人が参加。米軍の統裁官は在日米軍司令官のライス中将。

- | | |
|-----------|--|
| 1 演習の目的 | 我が国防衛のための日米共同対処及び周辺事態等各種の事態に際しての自衛隊の対応と日米協力について検証・演練し、共同統合運用能力の維持・向上を図る。 |
| 2 実施時期 | 平成21年1月15日（木）～1月27日（火） |
| 3 実施場所 | (1) 自衛隊 市ヶ谷駐屯地、その他参加部隊の所在地等
(2) 米軍 在日米軍横田基地、その他参加部隊の所在地等 |
| 4 統裁官 | (1) 自衛隊：統合幕僚長海将齋藤隆
(2) 米軍：在日米軍司令官空軍中将エドワード・A・ライス Jr. |
| 5 演習参加部隊等 | (1) 自衛隊 統合幕僚監部、陸上幕僚監部、海上幕僚監部、航空幕僚監部、各方面隊、中央即応集団、通信団、補給統制本部、自衛艦隊、各地方隊、システム通信隊群、海上自衛隊補給本部、航空総隊、航空支援集団、航空システム通信隊、航空自衛隊補給本部、自衛隊指揮システム通信隊、情報本部等
(2) 米軍 在日米軍司令部、在日米陸軍、在日米海軍、在日米空軍、在日米海兵隊等 |
| 6 その他 | 日米共同統合演習（指揮所演習）は、今回で17回目の実施となる。（第1回目は昭和60年度に実施） |

日米一体化うきぼり 12月福生市議会インターネット中継より

《横田基地の現状と、自衛隊移駐後の体制の概要は？》（奥富喜一議員の質問）

◎横田基地の全体の管理・運用は、第374空輸航空団で、大きく分けて、①運用、②整備、③支援、④医療の4つのグループがある。

◎使用している部隊は、在日米軍司令部、第5空軍司令部や、第730機動中隊と上部機関の第515航空機動運用群、第13空軍第1分遣隊（ケニー司令部ジャパン）をはじめとして、30以上の部隊がある。

◎航空総隊司令部との関係では、日本の防空及びミサイル防衛の司令部間の連携を強化するため、航空総隊司令部は第5空軍司令部と併置される。防空だけでなく在日米軍と自衛隊との間で情報を共有し効率的な運用をはかるため、共同統合運用調整所が設置されるものと理解している。